

小特集

さまざまな病院図書室

“あすなろ文庫”の誕生とその後のあゆみ

高田たみ代

1. 当図書室の概略

当院は、昭和34年10月に診療科目8科184床で発足し、岐阜県西南部の西濃圏域医療圏の中核の基幹病院として地域医療に大きな役割を果たしてきました。この間、高度医療機器の導入をはじめ、病棟の増改築工事、増床を繰り返し行い、今日では診療科目21科、病床数も888床、職員の数は約1,200名となっています。

旧図書室は蔵書5,000冊、120㎡でしたが、昭和62年12月には院内の学術研究に精を出す医師の増加とともに5倍以上の広さの新しい図書室に拡充され、図書館というイメージになっています。利用者も医師以外に、コ・メディカルから看護婦、実習生、医師会員も利用するようになってきました。

2. 患者さんへの貸出サービス開始まで

当初は毎年決められた予算の中で本が購入されておりましたので医学関係書ばかりでした。ところが、この新しい図書室は関係者以外立ち入り禁止の管理棟の奥にあるにもかかわらず、週に一度くらいの割合で寝巻姿の患者さんや、その家族の方が入って来られ、「何か借りれる本はありませんか?」とか、「こういう病気について詳しく知りたいので本を見せて下さい」と言われるのです。しかし係としては「ここは専門書ばかりでお貸し

できる本はありません」とか、「一般の方には貸し出しできないことになっておりますので。」とお断りして帰っていただくしかありませんでした。

こうしたやりとりを繰り返していくうちに、これだけたくさん入院患者さんがおられるのだから、せめて本を読める状態の人にだけでも、本の貸し出しサービスができないものだろうかと考えるようになりました。

昭和63年に第5回図書館情報サービス大会が東京で開かれた折、病院図書室関係の発表の中で、上須賀総合病院の図書係の方の“入院患者に対する巡回図書サービス”という興味ある発表がされました。このとき、一般に人員の少ない病院図書室において、医学書の管理だけでも大変であるのに、患者サービスのために部屋を空ける時間がとれるものだろうかという疑問と、やろうと思えば方法はいろいろあるのだという思いがしました。菊池先生の書かれた「患者と図書館」を参考として、当院でも何らかの形で患者図書貸出サービスを実践していこうという気運が出てきました。

院内の図書委員会で提案したところ、各科の代表16名からなる図書委員の反応は、『人員、場所、資金など問題点は多いが良いことなので前向きに進めていきましょう。』という結論に達しました。

まず本が無くては何もできないので、職員に本の寄付を呼びかけることから始めました。

しばらくすると、寄付する本を一杯詰め込んだ袋を手提げ、職員が図書室を訪れて下さるようになり、本はどんどん集まってきました。時間を見つけては、それらを仕分けすると共に、本の内容に片寄りがあると気付き、万遍なく広く本を集めるために市立図書館に協力をお願いして、2か月に1度くらいの割合で出かけて行き、寄付の本の中から欲しい本を頂いてくることができました。こうして1年後には約2,000冊の本を収集することができました。



広い中央廊下に設置された“あすなる文庫”

3. あすなる文庫の誕生

このような図書系の活動に対して、職員の方々へアンケート調査をしたところ、94%の賛成意見と、サービスを始める上でのたくさんの参考意見をいただくことができました。また、文庫の名前も職員から募集の後、“あすなる文庫”に決定されました。

さて、サービスを開始できる数の本は充分集まってきたのですが、図書委員会で毎回文庫について討議されたにもかかわらず、どうしても最後のところで文庫の開設場所の問題が出てきました。とりあえず収集した本を閲覧室の一角に並べ、職員を対象に、選書の目的も込めて貸出を始めました。

また、まず手始めに平成2年と3年の年末年始には、小児科の許可を頂き、小児病棟に入院中の子供やお母さんを対象とした本を選

んでワゴンに載せて病棟に運び、貸出サービスを試験的に行ってみました。その結果、今までにない珍しいサービスにとっても喜んでもらうことができ、また一冊も紛失することはありませんでした。

そして今度はもっと読者を広げる意味において、平成4年11月、2病棟の広い中央廊下の壁面に沿って9本の書架を並べ、“あすなる文庫”が正式に開設されました。翌朝の新聞には“あすなる文庫”が取り上げられ、“心のケアもお任せ”という見出しには、係として頑張らねばという思いが増しました。

4. あすなる文庫の運営

現在貸出が始まって丸6年が経過しましたが、当初心配が多かった紛失については、自由に持ち出しができる割には非常に少なく、殆どの方が貸出用紙に記入されて上手に利用されています。開設後は退院された患者さんや一般の方からの寄付が増えており、順調な運営が行われています。

現在あすなる文庫の管理上で係が最も気を配っている点は、

清潔な本を提供すること。(毎朝書架を整頓し書棚全体に除菌用スプレーをかける) 気楽に本が借りられる雰囲気づくりをする。読みたい本が選びやすいよう、分類、配列を工夫する。

少しでも沢山の本を利用していただけるよう、本の入れ替えを随時行う。(図書室で寄付された本、約10,000冊を保管)

などです。

5. おわりに

専任1人、医局兼務1人の人員の中で、あすなる文庫を運営するのは非常に大変ですが、毎日たくさんの方に利用していただけるので、やりがいを感じて頑張っています。

図書の業務も相互貸借が活発になってきましたし、当院では特に毎年沢山の研究業績が発表されているため、職員への迅速なる資料提供サービスも不可欠です。

一方、文庫があることで患者さんにリラックスしていただけますし、特に外来患者さんには待ち時間を有効に使い、入院患者さんには気分転換や良書との出会いで心のケアとなる場合もあります。忙しく働く職員にとってはもちろん、外来及び入院患者さんにとってもいまではあすなる文庫はなくてはならない存在になってきています。

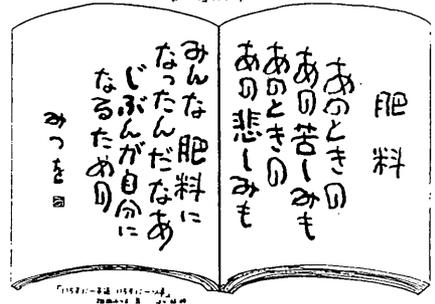
あすなる文庫だより 平成11年 / 月号

12月の貸出冊数 986冊
(22人分)

12月の寄贈冊数 237冊
(12人分)

★今月の川柳

- ・ 蛙のうたに 冬眠したい ときもある
- ・ いらだちは 醜い殺の 吹き出物の
- ・ 北風か 強くていほし 貝になる
- ・ 病床上 12月が来た 様か愛



| 年 月 | 利用人数 | 利用冊数 | 寄贈冊数 | 年 月 | 利用人数 | 利用冊数 | 寄贈冊数 |
|---------|------|------|------|-------|--------|--------|--------|
| 92/ 1 1 | 1089 | 1721 | 30 | 94/ 2 | 1689 | 2623 | 404 |
| 12 | 1110 | 1734 | 66 | 3 | 1806 | 2918 | 399 |
| 93/ 1 | 1392 | 2133 | 301 | 4 | 1471 | 2190 | 491 |
| 2 | 1539 | 2370 | 239 | 5 | 1706 | 2494 | 248 |
| 3 | 1690 | 2596 | 260 | 6 | 1564 | 2353 | 141 |
| 4 | 1553 | 2427 | 505 | 7 | 1559 | 2597 | 239 |
| 5 | 1657 | 2546 | 125 | 8 | 1662 | 2652 | 636 |
| 6 | 1355 | 2115 | 543 | 9 | 1362 | 2160 | 169 |
| 7 | 1532 | 2416 | 139 | 10 | 1626 | 2260 | 358 |
| 8 | 1914 | 3092 | 582 | 11 | 1509 | 2284 | 542 |
| 9 | 1579 | 2738 | 562 | 12 | 1489 | 2238 | 346 |
| 10 | 1594 | 2523 | 344 | 95/ 1 | 1502 | 2269 | 337 |
| 11 | 1492 | 2314 | 656 | 2 | 1336 | 1883 | 479 |
| 12 | 1540 | 2327 | 377 | 3 | 1670 | 2451 | 646 |
| 94/ 1 | 1584 | 2377 | 817 | 計 | 44,572 | 68,801 | 10,981 |
| | | | | 月平均 | 1,537 | 2,372 | 379 |

この「あすなる文庫だより」は毎月1日に発行しています。院内4ヶ所（文庫・図書室・医局・食堂）に掲示する他、本を寄贈して下さった方にお渡ししています。

“あすなる文庫”の月別利用冊数・人数及び寄贈冊数